

カウントダウンシリーズ 4

十字架上で 破れた2つの心臓



Forever Friendship with God!!

永遠の友情の発見

混迷の世紀末、大世紀末を迎え

いよいよ新しい世紀、新しい千年期に向けてのカウントダウンが始まった

いま 来るべき未来に向けて私たちに希望はあるのか
揺るぎのない希望

それは変わることのない永遠の神と友情を結ぶことにある

愛の神は 今もあなたを愛し、あなたを求め

友情の手を差しのべておられる

このカウントダウンシリーズは

一九九八年全世界に向けて放映された

ネット98セミナー（講師ドワイト・ネルソン牧師）より選ばれた10話からなる
本シリーズを通して、

読者が神との永遠の友情を結ばれることを心より祈るものである

十字架上で 破れた2つの心臓

こんなことわざをご存じでしょうか。

「人生で二つのものは必ず向こうからやって来る。それは死と税金だ」

実に当たっていると思いませんか？ 税金のほうは、払わずにごまかすこともできるかもしれませんが、死をごまかすことは決してできません。

旧約聖書のエゼキエル書には、こう記されています。

「罪を犯した本人が死ぬのであって、子は父の罪を負わず、父もまた子の罪を負うことはありません。正しい人の正しさはその人だけのものであり、悪人の悪もその人だけのものである」（一八章二〇節）

預言者エゼキエルは、「罪を犯した本人が死ぬ」と単刀直入

に述べています。言い換えれば、罪を犯すすべての人間には、必

ず死が訪れるという、これは実に悪い知らせなのです。

心臓の上のあざ

私の弟のグレッグは、なかなかユーモアのセンスがあつて、若い頃私は彼のジョークでよくやり込められました。あるとき、弟は（アメリカでかつて大流行した）ギャリー・ラーソンという漫画家の作品を私に紹介してくれたのです。それは一コマ漫画で、「ザ・ファー・サイド（The Far Side）」というタイトルのシリーズものでした。人生のばかげた様子を、牛や鹿など動物の目や口を通して描いたものです。グレッグと私は、カードショップに立ち寄ってはこ

の「ザ・ファー・サイド」のグ

リーティング・カードの絵を見て、よく笑いこけていました。

私たちがよく覚えているのは、二匹の鹿が人間のように後脚で立ち上がり、話し合っている絵です。そのうちの二匹（ハルという名前）の鹿の毛深い胸に、大きな円形のものが描かれています。円の輪の中央には牛の目のような赤い点があり、それはちょうど心臓の真上なのです。それを見て、もう一匹の鹿がきついジョークを言います。

「ハル、それはなんとも恐ろしいあざだなあ。牛の目のような中心点が心臓の真上にあるあ



ぎをもって生まれてくるとは、君もよつぽど運が悪い。君は森のすべての猟師を喜ばせているぞ。『ここを狙え!』とね」：

：

冒頭の預言者エゼキエルの言葉をこのジョークに置き換えれば、罪を犯す人の心臓の真上にはみな赤い点が記されていて、「死」という名の猟師がこれを確実に狙ってくるのだ、ということです。しかも、罪を犯した人は死ぬかもしれないのではなく、必ず死ぬのです。

しかし、この悪い知らせを打ち消すような良い知らせがあります。罪を犯さなければ死ぬこ

神との関係を断ち切るのは私たち

そこでもう一度、読者のみなさんに質問してみます。心臓の上にな吉なあざを持たない人が、私たちの中にどれだけいるでしょうか? つまり、罪を犯さな

とはない、という良い知らせです。ローマの信徒への手紙には、「罪が支払う報酬は死です」(第六章二三節)とあります。罪は永遠の死という報酬を支払うわけです。しかし、これを逆転させて考えてみましょう。もし罪を

犯さなければ、死という報酬を受け取らなくても済む、ということになります。心臓の上のあざはちっともこわくありません! ただしそれは、私たちが罪を犯さなければの話なのです。

人はどれだけいるのでしょうか? この質問は、実はあまりしたくない質問なのです。と言うのも、悪い知らせにもう一度戻ることになってしまうからで

十字架上で 破れた2つの心臓

す。

ローマの信徒への手紙三章には、こう書かれています。「人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっています」（三章二三節）。「皆」とは、あらためて確認するまでもなく、例外なく全員ということです。言葉も、文化も、年齢も、性別も、教育も、収入も、血筋も、宗教も一切関係なく、地球上のすべての人が罪を犯したのです。一人残らず私たちには、かわいそうな鹿のハル君のように、心臓の真上に大きなのがついでいて、死という名の猟師の餌食になる運命が背負わされているということなのです。

しかし、罪とは一体何なのでしょう？ 聖書の中に、実に簡潔な罪の定義が記されています。

す。簡潔ですが、奥深い意味を含んでいる言葉です。その定義とはこうです。

「罪を犯す者は皆、法に背く（そむ）のです。罪とは、法に背くこと（ヨハネの手紙1 三章四節）」

「罪とは、法に背くこと」。つまり「不法」ですが、この言葉は、イギリスの歴史家アーノルド・トインビー卿によって文明崩壊の徴候の一つとして用いられた言葉でした（第三話参照）。その正体は何だったのでしょうか？ 第三話を少し思い返してみたいと思います。

神の偉大な愛の律法、十戒の中心は「関係」でした。十戒は人間のあらゆる関係——人と神との関係、人と人との関係、そして自分自身との関係——を保

護し、育てるものです。ですから、法に背くこと、すなわち罪は、関係の破壊を意味することになります。

私たちが罪を犯したとしても、
神は決して私たちを拒み、
ご自身を私たちから
切り離されたりはなさいません

イザヤ書五九章を見てみましょう。

「主の手が短くて救えないのではない。／主の耳が鈍くて聞こえないでもない。／むしろお前たちの悪が／神とお前たちとの間を隔て／お前たちの罪が神の御顔^{みかお}を隠させ／お前たちに耳を傾けられるのを妨げているのだ。／お前たちの手は血で、指は悪によって汚れ／唇は偽りを語り、舌は悪事をつぶやく」
(五九章一～三節)

ここに、関係の世界における罪のもう一つの姿が描かれています。罪は、神と私たちの関係

あなたはどっくにいるのか？

私たち人間が一方的に関係を断ち切ろうとするとき、神はど

を断ち切るものです。ただし注意しなければならぬのは、私たちが罪を犯したとしても、神は決して私たちを拒み、ご自身を私たちから切り離されたりはしない、ということ。神ではなく罪が、その本来の性質によって、私たちに神を拒ませ、私たちを神から切り離させるのです。つまり、私たちが罪を犯すとき、神を私たちから引き離すのは私たち自身だということです。電話での神との会話を一方的に切ってしまうのは私たちなのだ、と言ったらわかりやすいでしょうか。

うなさるのでしょうか。「やっかい払いができて、せいせいし


た」と喜ばれるのでしょうか。いいえ、神は決してそんなふうにお喜びになったりしません。ここに、さまざまな悪い知らせに対する良い知らせがあるのです。

神がどうなさるか、お知りになりたいですか？ 最初の二人の人間、アダムとエバが罪を犯し、自分たちのほうから神を切り離してしまつたとき、神がまづどうなさつたかを見てくださいます。

「その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間^こに隠れると、主なる神はアダムを呼ばれた。『どこにいるのか』」

(創世記三章八、九節)

アダムとエバは神の律法に背



くと、逃げて身を隠しました。しかしそのとき、彼らの創造主なる神は、逃げた彼らを探し求められたのです。エデンの園以来、この地上の長く苦悩に満ち

た歴史の中で、私たち人類はずっとこの言葉を聞き続けています。「あなたはどこにいるのか？」という神のお言葉です。

神に背き、神から逃げ去った子らを探し求める神の叫びが、この聖書全体の中でこだましています。どの預言者の訴えを聞いても、どの英雄や悪党の物語を読んでも、それらの行間には、反逆した罪人である私たちをいつも探し求めておられる神の声を聞くことができます。

私たちは神の偉大な愛の律法を破りました。アダムとエバと私とあなたとで、律法を破ったのです。そして敵の側に乗り換え、自己を拝むようになりまして。そのことが、神を恐るべきジレンマへと追い込んだのです。神は、ご自身が制定された

愛の律法である十戒を廃することなどできません。この律法は神ご自身の愛の品性の表現ですから、それを廃せばご自身を廃すことになってしまいます。では、墮落した地上の子らを滅ぼせばいいのでしょうか。

このような選択も、愛の神にはやはり到底できないことです。神はどのようにして私たちを救い、また同時に、ご自身の品性の表現である律法を維持できるのでしょうか？ 人間の罪の刑罰はどうしたらいいのでしょうか？ 罪人の報酬はどう支払われるべきなのでしょうか？ 要するに、神が律法の神としてご自身に誠実でありながら、同時に愛の神として神の子らに對し、どのようにに真実であり得るのでしょうか？

愛のジレンマを克服する計画

エデンの園でのあの夕べ、神

章一四、一五節)

はこのジレンマに対して決断を表明なさったのです。こうして、

神のお言葉の後半を言い換えると、こういうことです。

人類にとって最悪の知らせが、最良の知らせによって対処されず。人類の緊急事態に対して、神はその計画を地上で初めて発表なさいました。

「サタンよ。私「神」は、墮落した人間の子供たちとおまえの間に、生まれながらの悪感情、敵意を植えつけよう。それはお前に抵抗する良心であり、人間が決してお前の支配下にあるように創造されたのではないという思いをひらめかせてくれるものだ。敵意、それは、人間が王なる私の子供として生まれてきたのであって、悪魔の奴隷などではないという感覚なのだ。お前は、この地球に悪と反逆の種子を播き続けるだろうが、私は一人の聖なる子孫を送る。それは

「主なる神は、蛇に向かつて言われました。『このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。』お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。／お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。／彼はお前の頭を砕き、お前はかかとを砕く。」(創世記三

全人類の罪を
彼は背負わされるのです。
この犠牲の小羊、
この受難者は、一体だれでしょうか？

十字架上で 破れた2つの心臓

ある日、女の胎内に植えつけられるであろう。そして彼が成長したとき、お前は彼のかかとを砕き、彼を傷つけるであろう。しかし、彼はお前の頭を砕く。彼は、お前の支配を永久に滅ぼすのだ！」

こうして神が語り終えられたとき、創世記三章の物語は、来るべき子孫が必ずしなければならぬことの血生臭い暗示を与える最も不可解な一文で終わっているのです。「主なる神は、アダムと女に皮の衣を作って着せられた」（二二節）

身代わりの受難者はだれ？

創世記三章における神の預言の数千年後に、イザヤ書五三章の預言が（紀元前七〇〇年頃に）

死のない完全な園に「皮の衣」が存在し得るでしようか？ アダムとエバの裸を覆う動物の皮を、神は一体どこで見つけになるというのでしょうか？ この答えは明らかです。人間の裸の恥を包むために、罪のない動物の命が犠牲にされなければならなかったのです。その瞬間、この地球上で最初の死がやって来たのでした。これは、墮落した人類を救うために、やがて神ご自身が血生臭い犠牲を払われるといふ最初の暗示となるべきことだったのです。

与えられます。この古代の預言は、だれのことを語っているのでしょうか？

「彼が担ったのはわたしたちの病／彼が負ったのはわたしたちの痛みであつたのに／わたしたちは思っていた／神の手にかかり、打たれたから／彼は苦しんでいるのだ、と。／彼が刺し貫かれたのは／わたしたちの背きのためであり／彼が打ち砕かれたのは／わたしたちの咎のためであつた。／彼の受けた懲らしめによつてわたしたちに平和が与えられ／彼の受けた傷によつて、私たちはいやされた。／わたしたちは羊の群れ／道を誤り、それぞれの方角に向かつて行った。／そのわたしたちの罪をすべて主は彼に負わせられた。／苦役を課せられて、かがみ込み／彼は口を開かなかつた。／屠り場に引かれる小羊のように／毛を切る者の前に物を



言わない羊のように／彼は口を開かなかつた」(四〇七節)

この犠牲の小羊に象徴される受難者は、一体だれなのでしょう

う？ 私たちのすべての罪、すべての不法が、彼に負わせられるといえます。全人類の罪を彼は背負わされるのです。この犠牲の小羊、この受難者は、一体だれでしょうか？

新約聖書は、預言者イザヤが指し示したこの受難者について、一片の疑いの影すら残していません。

「あなたがたが召されたのはこのためです。というのは、キリストもあなたがたのために苦しみを受け、その足跡に続くようにと、模範を残されたからです。『この方は、罪を犯したこ

苦悩に満ちたイエスの叫び声

ここで、キリストが十字架で亡くなられた恐るべき瞬間を見

とがなく、その口には偽りがなかった。』ののしられてものしり返さず、苦しめられても人を脅さず、正しくお裁きになるお方にお任せになりました。そして、十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました。わたしたちが、罪に対して死んで、義によって生きるようになるためです。そのお受けになった傷によって、あなたがたはいやされました」(ペトロの手紙1 二章二一〜二四節)

この受難者こそイエス・キリストであった、というのです。

てみましょう。その様子は、四つの福音書に記録されています

十字架上で 破れた2つの心臓

が、最も劇的に描写されているマルコによる福音書の記事を読みます。これは詩人のペンや雄弁家の弁舌によって美しく飾られるべきようなものではありません。キリストの十字架の物語は、美化することなくストレートに読まなければならないものです。

「イエスを十字架につけたのは、午前九時であった。……そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって言った。『おやおや、神殿を打ち倒し、三日で建てる者、十字架から降りて自分を救ってみろ。』同じように、祭司長たちも律法学者たちと一緒に代わる代わるイエスを侮辱して言った。『他人は救ったのに、自分は救えない。メシア、イス

ラエルの王、今すぐ十字架から降りるがいい。それを見たら、信じてやろう。』……昼の十二時になると、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。三時にイエスは大声で叫ばれた。『エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。』これは、『わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか』という意味である」(マルコによる福音書一五章二五、二九〜三四節)

私はこれまでに人間の叫び声を何度か聞きました。苦痛のために病室でうめき叫ぶ声、子供たちの泣き叫ぶ声。「わが神よ!」という叫び声も聞いたことがあります。それは航空機事故でのもので、それは航空機事故でのもので、事故のあとで回収されるブラック・ボックスには、操縦室と航空管制室との

交信記録が残されていますが、しばしばパイロットの最後の言葉は「神様!」という叫び声なのです。死を前にして苦悩のうちに叫ぶ「神様、神様」という声。しかしこの叫びさえ、イエスが十字架上で発せられた叫びとは、比較になりません。これまでの生涯の中で、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という、これほどむき出しの恐怖の叫び声を私は聞いたことがないので、私の手元に『米国医学協会ジャーナル』が一冊あります。これは、私の友人の医師が「ドワイト、この雑誌の特集記事はおもしろいと思うよ」というメモと一緒に送ってくれたものです。確かに興味深い記事でした。表紙には、ローマの兵士たちに囲

まれたイエスの絵が描かれていて、中の記事には「イエス・キリストの肉体的死に関して」という題がつけられていました。

記事は三人の共著で、一人は医師、一人は牧師、もう一人は解剖学に強い画家。キリストの生涯と死に至る最後の二四時間を綿密に研究して書かれた論文です。生理学的に見たキリストの死の原因については、このような結論が記されています。

「十字架刑による直接の死因は複合的で、それぞれのケースによって幾分違いがあるが、主要な二つの原因は、血液量減少性ショックと極度の体力消耗による窒息であろう。その他の要因として考えられることは、脱水、ストレス性不整脈、心膜からの滲出液の急速な蓄積によ

る心不全などである。イエスの直接の死因は、致命的な心臓の不整脈であったかもしれない」

この医学論文は、十分な研究に基づいて書かれたものでしょうが、福音書の記録は、イエス・キリストの死が生理学的、解剖学的できごと以上のものであったことを明らかに伝えているのです。十字架から聞こえてきた恐怖の苦悩に満ちたイエスの叫び声は、決して黙らせることができないようなものでした。

苦悩と絶望の理由

の恐怖は、あなたや私を含むすべての罪人の、法に背く反逆に對して、神ご自身が血生臭い値を支払われた、という測り知れない愛を物語っているのです。

イエスの心に、絶望的な恐るべき何かが起こっていたのです。

「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのか」

神から見捨てられたということ

* 心膜とは心臓を包む厚い袋のことで、心嚢（しんのう）とも呼ばれる。炎症などを起こすと、そこから血清や血漿（けっしょう）成分の体液が滲（にじ）み出る。

彼はこれらすべてを、ただ私たちの救いのためにしてくださいました。

「罪は法に背くこと」。これはすでに学びました。「私たち



はみな罪を犯し、法に背いた」。私たちはこれも認めています。「罪の支払う報酬は死、永遠の

死である」。聖書は確かにそう述べています。これらのことから言えるのは、「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」という叫びは、イエスが、罪の最終的結果、つまり神から永遠に切り離されてしまうことを強く自覚され、その恐怖から沸き上がる苦悩を経験な

十字架の上で二つの心臓が破れた

時代の希望』という古典には、次のように記されています。

「一生の間、キリストは、天父のあわれみとゆるしの愛についての良い知らせを墮落した世に宣伝してこられた。罪人のかしらの救いがキリストのテーマであった。しかしいま、「十字架上で」自ら負っておられる不

さった、ということなのです。十字架上のイエスの心の中では、父なる神との別離は徹底的であり、永遠のものでした。その苦しみが、彼の唇から「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」という叫び声をほとばしり出させたのです。キリストの生涯を描いた『各

義の恐るべき重さで、キリストは、天父のやわらぎのみ顔を見ることがおできにならない。この最高の苦悩の時に神のみ顔が見えなくなつたために、救い主の心は、人にはとうていわからない悲しみに刺し通された。：キリストは、罪が神にとって不快なものであるため、ご自分

と神との間が永久に隔離される
のではないかと心配された」
(E・G・ホワイト『各時代の
希望』下巻)

イエスは、罪のために生じた
巨大な負債を支払うことを自ら
選ばれたために、父なる神から
永久に切り離されるものと覚悟
して、十字架におかかりになっ
たのでした。しかし、イエスだ
けがこの世の罪の値を支払って
おられたのではなかったのです。

「父なる」神は、その独り
子をお与えになったほどに、世
を愛された」(ヨハネによる福
音書三章一六節)のです。カル
パリの丘の十字架から発せられ
た赤裸々な叫びの中に、二つ
の心臓が破れる音、血生臭い神
秘の音が聞こえるのです！

偉大なドイツの思想家ユルゲ

ン・モルトマンは、この深遠な
真理を次のように描写していま
す。

「御子は死の苦しみに会われ
たが、天父は御子の死の苦しみ
に会われた。ここにおける天父
の悲嘆は、御子の死と同じほど
重要である。天父を失った御子
の悲しみは御子を失った天父の
悲しみと同じである」(『十字架
につけられた神』)

これが、コリントの信徒への
手紙2に書かれている輝かしい
真理なのです。「神はキリスト
によつて世を御自分と和解させ、
人々の罪の責任を問うことなく、
和解の言葉をわたしたちにゆだ
ねられたのです」(五章一九節)
英語でならわずか四語にす
ぎない「神はキリストによつて」
(God was in Christ)とこう

言葉の中に、神の何と感動的な
お姿が描かれていることではよ
うか。一本の十字架の上で、父
なる神と子なるキリストの二つ
の心臓が破られたことを、決し

神はキリストによつて、
逃げていた私たちを追い求め、
叛逆の子らを永遠の友情に
引き戻してくださいましたのです



て忘れないでいただきたいと思
います。み子のとりなしによつ
て、かろうじてなだめられてい
るような怒り狂う父なる神の姿
は、聖書のどこを探してもない
のです。それどころか、父と子
のお姿は、いつも全く同じなの
です！

「神はキリストによつて」何
をなさったのでしょうか。「世
を御自分と和解させ」られたの
です。わかり易く言い直せば、
神はキリストによつて、神から
逃げていた子らを大きく開いた
ご自分の腕の中で抱擁しようと

熱心に求められた、ということ
です。

神はキリストによつて、逃げ
ている私たちを追い求め、反逆
の子らを永遠の友情に引き戻し
てくださったのです。そのため
に、神はキリストによつて、こ
の地上においてになり、ご自分
の子らが破ってしまった愛の律
法に対する違反の刑罰を自ら受
けるため、ご自分の命をすすん
で捧げられたのです。神はキリ
ストによつて、永遠の死という
暗闇へ降りて来られたのです。
しかし、読者のみなさんはき

命をかけた少女の決心

つとおっしゃるでしょう。「ち
よつと待つてください。イエス
は罪の報酬である永遠の死を受

けなかったのですよね。そして、
彼の最期の言葉は、『父よ、わ
たしの霊を御手にゆだねます』



ではなかったのですか。それなのはどうして、イエスは私たちの罪のために永遠の死という刑

罰を受けられた、と結論することができのですか」と。

これはもつともな質問です。そこでそれにお答えするために、私が子供の頃に聞いた一つのお話をしたいと思います。

一人の少年が重い病気になりました。主治医は、少年の特殊な血液と適合する同じ血液がなければ死んでしまう、と言いました。そこで家族全員の血液検査を行ったところ、少年の姉の血液だけが遺伝子的に適合していることがわかりました。そこで少年の命を救うために彼女の骨髓が必要だということになり、医師と両親は、この小さな姉に弟の緊急事態を説明したのです。とても重い病気の弟のために、彼女の骨髓の一部を分けてくれるかどうか、尋ねたのでした。

神はキリストによって、
私たちが神の良い知らせを受けられるように、
私たちの悪い知らせを
お受けになった、ということなのです

十字架上で 破れた2つの心臓

彼女はすぐには返事をしませんでした。思いがけない重大な話には、彼女は どうしていいかわからなかったのです。しかし、しばらくすると彼女は心を決め、彼らに向かって「うん」とうなずきました。弟のために自分の骨髄をあげることにしたので、そこで彼女を病室に運び、専門の医師が彼女の骨髄の一部を抽出する準備を始めました。医師は彼女に、骨髄を取ることどこに痛みが来るかといったことを注意深く説明しました。しかし彼女は、その価値ある目的のことだけを考え、勇敢にもうなずくだけでした。

処置が終わり、大切な骨髄を取られた少女は、病院から待っていた家族のもとへ連れて来られました。車イスで運ばれてい

た彼女は、そのとき、父親の顔を見上げながら、目に涙を浮かべて震える声で次のように言ったのです。

「お父さん、私、いつ死ぬの？」

父親は、娘が何のことを言っているのか、すぐにはわかりませんでした。が、次の瞬間、彼の心に稲光のように一つの考え

がひらめいたのです。彼女は自分の骨髄を分けてあげると、しばらくして自分は死んでしまう、と想っていたのです。医師や両親の説明のあとで彼女が「はい」と同意したとき、それは「はい。私は弟のために命をあげます」ということを意味していたのでした。

最後に、読者のみなさんに質

罪と救いが要約されたもの——十字架

問をさせてください。この少女は死んだのでしょうか？ それとも死ななかつたのでしょうか？

うために自分の命を与える、と決心したからです。

私は、確かに彼女は死んだ、と思うのです。それは肉体的な死ではありませんが、精神的に彼女は死んだのです。なぜなら、彼女は心の中で、弟を救

私にはこの小さなお話が、神の物語、つまりあの十字架の上で父なる神から見捨てられた子なる神の物語とだぶって見えるのです。そして、少女の「はい」という言葉の中に、「全人類を



救うため、私は永遠に死ぬのだ
というキリストの決意が聞こえ
てくるのです。ですから、私た

ちの罪と神の救いがあの十字架
に要約されている、と言えるで
しょう。ご自身を愛する以上に
神は私たちを愛しておられると
いう深い真理が、十字架であら
わされたのでした。

私たちが父なる神に救^すしてい
ただけるように、イエスは私た
ちの刑罰をお受けになったので
す。私たちがイエスの命を受け
取れるように、イエスは私たち
の死を苦しまれたのです。私た
ちがイエスの救いを得られるよ
うに、イエスは私たちの罪を担
われたのです。言い方を換えれ
ば、神はキリストによって、私
たちが神の良い知らせを受けら
れるように、私たちの悪い知ら
せをお受けになった、というこ
となのです。そしてこれこそ、
私たちが聞くことのできる最も

良い知らせなのです。

「神は、その独り子をお与え
になったほどに、世を愛された。
独り子を信じる者が独りも滅び
ないで、永遠の命を得るため
である」(ヨハネによる福音書三
章一六節)

これほど良い知らせがほかに
あるでしょうか。私たちをこん
なに深く愛してくださいました神に
感謝をささげようではありません
んか。神に向かつて高く手を上
げ、一緒に祈ろうではありません
んか。

「神様、イエス・キリストに
よるあなたの友情の贈り物を心
から感謝します。私は感謝しつ
つ、あなたの贈り物を受け入れ
ます！」



- 1 タイタニック 次は私たちか？
- 2 スター・ウォーズ 反逆者はだれだ？!
- 3 過去の文明はなぜ崩壊したのか
- 4 十字架上で破れた2つの心臓
- 5 豹はまだらの皮を変えられるか？
- 6 ダーウィンのブラック・ボックス
- 7 創造主からの時間の贈り物
- 8 あなたのルーツを心に！
- 9 11番目のシナリオ——希望はあるのか？
- 10 新しい祈り方——救い主を見つめて



著者 Dwight Nelson (ドウワイト・ネルソン)

東京で宣教師の息子として生まれる。米国アンドリュース大学神学修士、同大学神学院より博士号を修得。現在アンドリュース大学パイオニア・メモリアル教会の主任牧師、説教学の非常勤講師。著書多数。本稿の元になった Net98 セミナー（衛星放送による世界規模伝道集会）講師。

翻訳 山地明（やまじ あきら） SDA 都城キリスト教会牧師

校閲 文章工房・句読点

カウントダウンシリーズ 4
十字架上で破れた2つの心臓


1999年12月15日 初版発行

セブンスデー・アドベンチスト教団教会活動部

〒190-0011 東京都立川市高松町3-21-8

電話 042-526-6822

FAX 042-526-6301

 永遠の友情の発見
セブンスデー・アドベンチスト教団